2022年9月号掲載のITU-T、2023年2月号掲載のITU-D SG議長・副議長へのインタビューに続いて、本号では2023年11月のRA-23を経て我が国から選出されたITU-R SGの副議長に、役職への抱負などを伺いました。

ITU-R SG4 副議長（再任）

スカパーJSAT株式会社
河野（こうの）　宇博（たかひろ）

〈プロフィール〉

専門領域：衛星通信に係る技術及び規制に関する事項

1993年　大阪大学大学院基礎工学研究科博士前期課程修了

1993年　宇宙通信株式会社（現スカパーＪＳＡＴ株式会社）入社

1996年　ITU-R SG4に参画、周波数共用、不要発射、災害時通信等の検討に携わる

2019年　ITU-R SG4副議長就任（現在に至る）

―― ITU-R SG4副議長へのご就任おめでとうございます。今回、副議長に任命されたことについて率直なお気持ちをお聞かせください。

河野　前研究会期に引き続いての選任になりますが、前研究会期はコロナウイルス感染症の影響等によりリモート会議が続きました。そのような状況下でもSGとしてはWRCの準備などの役割は果たしたのですが、個人的には副議長としての役割をあまり果たせていませんでしたので、今研究会期はよりSGの活動に貢献できればと考えています。

―― ご担当事項（ご専門領域）とご経歴、ITU（SG）との係わり（年数など）、その他の標準化機関での活動などを教えてください。

河野　ITU-Rには1996年に右も左も分からない状態でWP4A会合に参加したことが始まりで、気付いたら30年近く関わっていました。ITUにおいては衛星通信システム間及び衛星通信システムとその他のシステムとの周波数共用や、不要発射などについて検討してきました。中でも非静止衛星に係る周波数共用は、参加するようになった当初から断続的に検討しています。そのほかには情報通信審議会の関連会合に参加しています。

―― 今研究会期におけるご担当の研究委員会の最重要テーマ・課題はどのようなこととお考えでしょうか。

河野　着目されているという意味ではIMT UEと人工衛星との直接通信（WRC-27 議題1.13）が挙げられると思いますし、実際に寄与文書も多く入力されています。この議題は地上側を担当しているSG5（WP5D）との密接な連携が必要という点でも特筆すべき課題と考えています。なお、SGとしては、WPがWRC-27の責任（responsible）グループとして特定されている議題が多く、貢献（contributing）グループになっているものも合わせるとかなりの数になることも課題と言えます。

―― 副議長としての抱負をお聞かせください。どのようなところに力点を置いて活動されるご予定でしょうか。

河野　物理的な会合に戻りましたが、リモートでの参加を可能としていることもあり、依然として短時間で結果を出すことが求められています。そのため一つ一つの議題について議論を尽くして合意に至ることが難しくなっていますので、少しでも合意に至るために貢献できればと考えています。また、近年メガコンステレーションと呼ばれる衛星通信システムが注目されており、それに係る課題をSG4で扱うことも多いのですが、以前2000年ごろに行われた検討やそれに関する情報を提供することで貢献することもできるのではないかと考えています。

―― 副議長としての難しさや障壁はどのようなものが想定されるでしょうか。また、そうしたことへの対処方法はどうお考えでしょうか。

河野　ITU-RのSGでは、文書の採択や、WPの構成の決定、その議長の選任を行うものの、具体的な検討はWPが行っており、具体的に貢献することが難しくなっています。
したがい、可能な限りWPの会合にも参加し、そこで様々な形で貢献したいと考えています。

―― 我が国、各加盟国の政府関係やICT産業界からの

理解や協力についての期待をお聞かせください。

河野　国内では、SG4については関係する機関は直接参加されていますので、国内での準備や会合期間中の対応を意見等の相違の解消にとどめることにより、参加者が会合への対応により注力できるようになるのではないかと考えています。各加盟国に対する個人的な期待を申し上げますと、他国の検討の内容の良いところを認めてそれを自国の検討に取り入れることが検討結果を一つに集約することにつながるものと考えていますので、そのような形で合意形成に協力いただくことを期待しています。産業界に対しては、市場規模との兼ね合いもあろうかと認識しておりますが、地球観測などと同様、電気通信についても活動が活発になればと思っています。

――　最後に、個人の信条や、プライベートな時間でのご趣味などをお聞かせください。

河野　プライベートな時間は自転車に乗ったり家庭菜園での作業をしたりして過ごしています。以前は軽めの登山もしていたのですが、昨年は猛暑だったこともあり、最近登れていません。いずれについても自身で動かないと進みませんし、反対に動けば少しずつかもしれませんが着実にゴールに近づきます（家庭菜園の方は気候や病気、害虫の影響を受けて努力が報われないこともありますが）。ITUの活動においても、技術的な根拠に基づいて（地道に?）他国からの参加者の理解を求めることが最終的にはゴールへの近道になるものと考えています。

――　読者へのメッセージをお願いいたします。

河野　最近宇宙が国内外で注目を集めているところではありますが、衛星通信については欧米が先行する状況が続いています。したがい、これから衛星通信に関わろうとされている方がいらっしゃいましたら可能な限り協力差し上げたいと考えていますし、その他の方におかれましても、衛星通信関係のITU-R勧告や、SG4の活動に関する質問その他相談などがありましたらお気軽にお問い合わせいただければと思います。

【読者のための豆知識】
SG4の活動内容：衛星業務

■休暇には癒されるため動物園に行くこともあります

ITU-R SG5 副議長（新任）

KDDI株式会社
今田（いまた）　諭志（さとし）

〈プロフィール〉

専門領域：携帯電話用無線通信、衛星通信

1997年　慶應義塾大学大学院 理工学研究科 電気工学専攻 修士了

1997年　国際電信電話株式会社（現KDDI株式会社）入社

2000年　ITU-R SG8 WP8D（現SG4 WP4C）に参画、移動衛星関連の勧告作成に携わる

2015年　ITU-R SG5 WP5D、WP5A、TG5/1等に参画、携帯電話用周波数追加特定に携わる

2024年　ITU-R SG5副議長就任（現在に至る）

―― ITU-R SG5副議長へのご就任おめでとうございます。今回、副議長に任命されたことについて率直なお気持ちをお聞かせください。

今田　ありがとうございます。総務省様をはじめご推薦いただいた皆様のおかげであり、日本ひいては世界のモバイル業界の発展のため、これまでより一層、会議に貢献していきたいと考えています。

―― ご担当事項（ご専門領域）とご経歴、ITU（SG）との係わり（年数など）、その他の標準化機関での活動などを教えてください。

今田　2000年よりITU-R WP8D（現WP4C）会合に参画、移動衛星の勧告作成に携わり、2015年よりITU-R WP5D会合を中心に参画、携帯電話用周波数追加特定に携わる等、日本代表団として移動及び衛星の両通信分野の標準化に継続的に携わってきました。2010年ごろの第4世代携帯電話規格策定ではWiMAXに関わるIEEE 802.16WGにも参画していました。

―― 今研究会期におけるご担当の研究委員会の最重要テーマ・課題はどのような事とお考えでしょうか。

今田　将来のBeyond 5G（6G）向けの周波数を確保するため、カバレッジと容量の観点でバランスのとれたミッドバンド周波数を携帯電話用に追加特定する検討を重要視しています。さらに、2024年内に日本で提供開始を予定する、エリア拡張を実現するスマホと衛星の直接通信の中長期的な安定運用に向けた国際制度化にも注目しています。

―― 副議長としての抱負をお聞かせください。どのようなところに力点を置いて活動されるご予定でしょうか。

今田　上述の携帯電話用周波数追加特定及び衛星直接通信の国際制度化といった議題では、共通して衛星と地上系の共用が重要な課題になると考えています。このため、衛星と地上の研究グループ間で連携が必要なことから、研究グループ間の意見調整を促進し、SG4等と連携しながら、SG5が所掌とする研究を推進し、モバイル業界の発展に貢献したいと考えています。

―― 副議長としての難しさや障壁はどのようなものが想定されるでしょうか。また、そうしたことへの対処方法はどうお考えでしょうか。

今田　新規に周波数を利用する業務から既存業務を保護するための条件策定において、衛星とモバイルの両事業者による激しい議論が想定されます。これまでの衛星と地上系での経験を踏まえ、GSMA FSG（将来周波数検討グループ）副議長職の立場を活用しモバイル関係者の意見をまとめ、議論の平行線を辿るのではなく、歩み寄りにより解決策を見いだせるよう、一歩一歩議論を進めたいと考えます。

―― 我が国、各加盟国の政府関係やICT産業界からの理解や協力についての期待をお聞かせください。

今田　日本としてBeyond 5G等の周波数確保及び非地上系ネットワークによるエリア拡張の実現に向け、携帯電話事業関係者一丸となり、総務省様にもお伺いしつつ、公平な視点で共用両立性検討を実施できるよう、既存事業者とも協力を得ながら検討を進めたいと考えます。

―― 最後に、個人の信条や、プライベートな時間でのご趣味などをお聞かせください。

今田　週末にジョギングをして運動不足を解消しています。身体をほぐすとともに頭の中をリセットする時間にもなっています。ジュネーブ開催の会合のときは、週末にはレマン湖畔を走り、心身をリフレッシュするようにしています。

―― 読者へのメッセージをお願いいたします。

今田　ITU-Rでは無線通信事業の根底を成す周波数に関し、将来を見据え国益を掛けた議論を実施しています。社内や国内だけではなく、世界を相手にした取組みに興味をお持ちの方は、ぜひITU-Rの活動に一歩足を踏み入れてみてください。

【読者のための豆知識】
SG5の活動内容：地上業務

ITU-R SG6副議長（新任）

日本放送協会
大出（おおで）　訓史（さとし）

〈プロフィール〉

専門領域：音響システム、音声品質評価

1999年　東京工業大学大学院総合理工学研究科修士課程 修了
1999年　日本放送協会 入局
2014年　ITU-R SG6関連会合での活動開始
　　以降、音響関連のSWG議長、RG共同議長歴任
2020年　ITU-R SG6 WP6C副議長就任
2024年　ITU-R SG6副議長就任（現在に至る）

―― ITU-R SG6副議長へのご就任おめでとうございます。今回、副議長に任命されたことについて率直なお気持ちをお聞かせください。

大出　これまでSG6へは諸先輩方が多大な貢献をされており、先達に負けぬようにこれからも放送業界を発展させていくという重責に身の引き締まる思いがしています。

―― ご担当事項（ご専門領域）とご経歴、ITU（SG）との係わり（年数など）、その他の標準化機関での活動などを教えてください。

大出　協会内では音響関連の研究開発を担当しており、次世代音響方式関連の標準化のため、2014年からSG6にて活動しています。同内容を広く普及させるため、電波産業会（ARIB）やSMPTE、EBUにも参加しています。

―― 今研究会期におけるご担当の研究委員会の最重要テーマ・課題はどのような事とお考えでしょうか。

大出　放送の役割や放送番組の視聴のされ方が大きく変わっていく中で、放送の将来像を示し、さらに発展させることが重要なテーマであり、放送と通信の更なる融合、限られた帯域での新しい放送方式への移行が課題になると考えています。

―― 副議長としての抱負をお聞かせください。どのようなところに力点を置いて活動されるご予定でしょうか。

大出　副議長は個別の役割も担うことになっており、他の標準化団体との連携も含めて、自身の役割である音響関連技術の発展に寄与したいと考えています。また、放送方式や映像方式などこれまで馴染みが薄かった分野にも貢献の幅を広げていきたいと思っています。

―― 副議長としての難しさや障壁はどのようなものが想定されるでしょうか。また、そうしたことへの対処方法はどうお考えでしょうか。

大出　これまでもWP6C副議長としてSG6の運営に関わっており、副議長となり立場は変わるものの、対応の方向性は大きく変わらないと思っています。放送を取り巻く環境の変化への対応の方が難しいと考えていますので、SG議長・副議長、WP議長・副議長と協力して課題解決に取り組んでまいります。

―― 我が国、各加盟国の政府関係やICT産業界からの理解や協力についての期待をお聞かせください。

大出　映像・音声メディアを取り巻く環境や視聴のされ方は大きく変わってきていますが、放送が果たす役割や重要性が理解され、他国をリードするような取組みや先進的な技術開発への協力が得られることを期待しています。

―― 最後に、個人の信条や、プライベートな時間でのご趣味などをお聞かせください。

大出　無駄な経験はないと思っておりますので、これを機に専門外の分野も積極的に学んでいきたいと考えています。趣味と紹介できるようなものはなく、休日はコーヒーを片手にテレビを視聴しながら読書していることが多いです。

―― 読者へのメッセージをお願いいたします。

大出　来年2025年は、日本でラジオ放送が始まってちょうど100年となります。テレビ放送やデジタル放送など放送メディアの歴史は技術の進化とともにありました。技術開発の発展と普及におけるITUでの国際標準化が果たした役割は大きかったと思います。今度とも皆様のご支援を宜しくお願い致します。

【読者のための豆知識】
SG6の活動内容：放送業務